講座番号
C001

鯨と日本人

特別企画

講座講師・内容

小泉武夫［東京農業大学名誉教授］

今では、鯨肉は幻となり、昔のように格安で買えるといった代物ではなくなったが、その鯨肉食を巡っては、国家間の意見の相違があるばかりでなく、日本国内に於いても賛否両論があって実に難しい問題を含んでいる。「捕らせない」「捕る」といった具体的論争よりも、「海洋生態系バランス」といった抽象的観点から考える時にきたと思う。また、講義では、日本人の鯨感や鯨文化についても述べる。

プロフィール：現在、東京農業大学名誉教授をはじめ、農林水産政策研究所客員研究員（農水省）、全国地産地消推進協議会会長、食料自給率向上協議会長（農水省大臣官房）、（特定法人）発酵文化推進機構理事長、食料・農業・農村政策審議会委員（農水省）など政府関係委員も多数務め、現在は鹿児島大学農学部・広島大学医学部・琉球大学農学部・石川県立大学生物資源学部・福島大学食農学部等の客員教授。

主な受賞：日本醸造協会伊藤保平賞／日本発明協会白井賞／読売新聞社オピニオン賞／三島海雲学術奨励賞／産経児童出版文化賞／第12回学校図書出版賞／2011年水産ジャーナリストの会賞／2013年度福島県知事賞など多数。

主な著書：『憂国の情に駈られて』（東京農大出版会）／『中国怪食紀行』（日本経済新聞社）／『食あれば楽あり』（日本経済新聞社）／『食と日本人の知恵』（岩波現代新書）／『発酵』（中公新書）／『発酵食品礼讃』（文春新書）／『いのち育む農と食』（岩波ジュニア新書）／『猟師の肉は腐らない』（新潮社）など単著は小説を含め144冊を数える。日本経済新聞に『食あれば楽あり』を25年にわたり連載中。

カリキュラム

※講座内容、日程は変更になる場合があります。

12/15（土）13:30～15:00